資源管理基礎調査（海洋環境）

浅海定線観測

（要約）

小泉　広明・高坂　祐樹

目　　的

陸奥湾の海況の特徴や経年変動などを把握し、海況予報のための基礎資料を得るために、昭和47年度から実施している。　なお、本報告は平成23年1月から12月までの調査結果をとりまとめたものである。

材料と方法

1　調査船

なつどまり（24トン、770ps、16.5ノット）

2　調査点

陸奥湾内の8点(図1)。

3　調査方法及び項目

調査方法は、平成23年度「資源評価調査事業」沖合海域海洋観測及び資源管理体制強化実施推進事業に関わる海洋観測調査指針(東北ブロック関係・平成23年4月・独立行政法人水産総合研究センター東北区水産研究所)に準拠した。

調査項目は以下のとおり。

①　海上気象

天気、雲量、気温、気圧、風向、風力、波浪

②　水色、透明度

③　水温、塩分

0m層、5m層、10m層、10m以深は10m毎の各層と底層(海底上2m)

④　溶存酸素

St.1～6の20m層と底層(海底上2m)及びSt.2、4の5m層

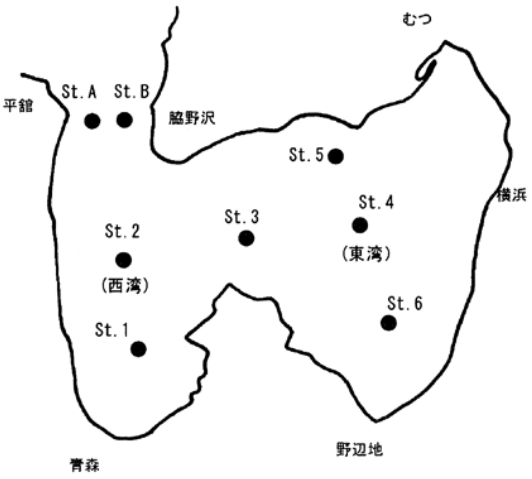

図1　調査点

4　調査回数

平成23年中に毎月1回、計11回実施（11月は欠測）

調査期日は次のとおり。

平成23年1月12日、2月9日・14日、3月7日・8日、4月12日・14日、5月11日、6月7日・8日、7月6日・7日、8月2日・4日、9月6日・8日、10月4日・5日、12月14日・16日

発表誌：平成23年度青森県資源管理基礎調査、浅海定線調査結果報告書、地方独立行政法人青森県産業技術センター水産総合研究所、平成24年2月

結　　果

平成23年における陸奥湾の海況の特徴は以下のとおりである。

1　透明度の年間の推移は平年に比べ、1月に西湾で、2月に全湾でかなり低め、8月に東湾でかなり高め、その他は平年並みからやや高めの範囲であった。

透明度の全調査点の最高値はSt.4・8月の23m、最低値はSt.1,3・2月の7mであった。

2　水温の年間の推移は平年に比べ、6月に東湾で、8月に西湾でかなり低め、その他は平年並みからやや低めの範囲であった。

水温の全調査点の最高値はSt.A・5m層の9月の24.90℃、最低値はSt.5・0m層・5m層の2月の2.90℃であった。

3　塩分の年間の推移は平年に比べ、1月に西湾、2月、4月に全湾、3月に東湾、5月西湾及び全湾でかなり低め、その他は平年並みからやや低めの範囲であった。

塩分の最高値はSt.A・底層の8月の34.354、最低値はSt.1・0m層の5月の30.713であった。

4　20m層の溶存酸素量の年間の推移は平年に比べ、やや高めからやや低めの範囲であった。

底層の溶存酸素量の年間の推移は平年に比べ、7月に西湾でかなり低め、9月に西湾でかなり高め、その他はやや高めからやや低めの範囲であった。

溶存酸素量の全調査点の最高値は、St.5・20m層の2月の10.32mg/ℓ、最低値はSt.4・底層の10月の4.64mg/ℓであった。

溶存酸素飽和度の全調査点の最高値は、St.2・5m層の9月の105.81%、最低値はSt.4・底層の10月の60.19%であった。